“メタボ”と検査がよく分かる

専門医のはなし 15

メタボリックシンドロームと尿中微量アルブミン

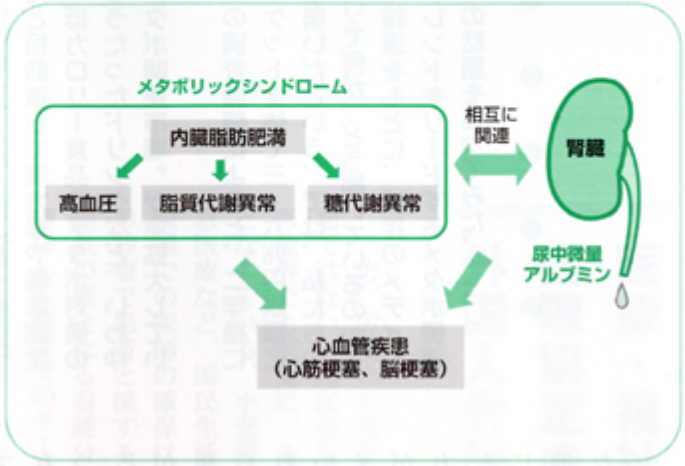
日本臨床検査専門医会
菊池　春人

1. 尿中微量アルブミンとは

腎炎などの腎疾患では、尿中に蛋白が多く排泄されるようになりますが、そのなかで最も多いのがアルブミンという蛋白です。健康診断で尿蛋白を試験紙で検査する時にもアルブミンを主に検出しています。糖尿病の合併症のひとつとして腎臓の障害(糖尿病性腎症)があり、障害が進行すると尿蛋白が多く出るようになりますが、試験紙による尿蛋白検査で陽性となってしまった段階では、腎臓の障害をもとに戻すことがなかなか困難です。そこでより**早期に糖尿病性腎症を発見するための検査として用いられているのが尿中微量アルブミン**です。この検査では微量の蛋白尿を発見できるので、**尿中微量アルブミンが増加してきた段階で糖尿病をきちんと管理すれば腎臓の障害を未然に防ぐことができます**。そのため早期糖尿病の患者さんの定期的な検査のひとつとして広く行われています。

2. メタボリックシンドロームと尿中微量アルブミン

メタボリックシンドロームは内臓脂肪肥満を背景として、高血圧、糖尿病(糖代謝異常)、脂質異常を合併した症候群で、心筋梗塞や脳梗塞などの心血管疾患発症の原因として問題となっています。メタボリックシンドロームでは糖尿病や高血圧以外の要因でも腎臓の障害を引き起こすことがわかっていて、慢性腎臓病から最終的に血液透析を必要とするような末期腎障害になってしまう頻度や慢性腎臓病の早期段階である尿中微量アルブミンが増加している割合が多くなっています。**一方、腎臓の障害があって尿中微量アルブミンが増加している場合にはメタボリックシンドロームで問題となる心筋梗塞や脳梗塞などの心血管疾患の発症が多い**ことが知られています。つまり、**尿中微量アルブミン増加は心血管疾患の危険因子**ということになります。このことから1999年の世界保健機関(WHO)によるメタボリックシンドロームの診断基準のなかには、微量アルブミン尿が含まれています。



3. メタボリックシンドロームにおける尿中微量アルブミン検査

このようにメタボリックシンドロームと尿中微量アルブミンはお互いに関連が深いものです。しかしながら、**現在のところ尿中微量アルブミンの検査が健康保険で認められているのは尿蛋白陽性になる前の早期糖尿病に限られている(3ヶ月に1回)**ため、メタボリックシンドロームであっても糖尿病でない場合には検査をすることができません。今後検査できる対象が広がっていくことが望まれます。